

国立大学法人兵庫教育大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

兵庫教育大学は、教員の資質能力の向上に対する社会的要請に応えるため、学校教育を中心とした理論的、実践的な教育・研究を進めるとともに、教育諸課題に対応する教員の力量形成を支援し、我が国の教育の発展に寄与することを基本理念としている。第2期中期目標期間においては、実践的指導力を持った教員の養成と、資質・力量を備えた専門職業人たる優れた現職教員の育成とともに、教育実践学の高度な研究・指導能力を持った人材の輩出等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、各課程のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて、「ミッションの再定義」や各課程の設置目的等を踏まえて統一的な見直しを図っているほか、「兵庫教育大学におけるFDの定義」を策定し、アクティブ・ラーニング研修会の実施等、FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の活性化に向けた取組を行うなど「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、これからの時代に求められる教員としての資質能力の向上を図るため、大学院カリキュラムの検証・充実や教育内容の改善を行い、教師教育スタンダードを構築することを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成25年度においては、「教員養成の高度化に関する講演会」や「教員養成改革に関するシンポジウム」を実施するとともに、本研究成果の一部を実証的に示すための取組として、現代の教員に求められる高度な実践的指導力を養成する「教員養成高度化システムモデル」を構築・発信しているほか、大学院修士課程学生を対象とした「教職アドバンスプログラム」を創設し大学院レベルの教育実習等を行うこととしている。

（機能強化に向けた取組状況）

大学院の教育研究組織の見直し及び改善を図るため、大学院改革戦略会議を設置し、専攻を単位とするワーキンググループにおいて、新組織、新カリキュラムの具体的内容の検討を実施しているほか、「北海道市町村教育長セミナー」及び「全国市区町村教育長セミナー」の開催や、「教育行政職幹部職員の能力育成モデルカリキュラムの開発」を行っており、関係機関等に提供している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

〔①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化〕

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学内センターの全体改革計画、センター業務の自己点検及び学長の基本方針に基づき、学校教育研究センター及び実技教育研究指導センターを廃止するとともに、兵庫県内の大学や教育委員会等との連携・協働による教員養成の基盤形成を図ることや国際活動の充実を図ることを目的として、教育実習総合センター及び国際交流センターを設置している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 14 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- (①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 予算合理化の観点からの事業見直し（事業仕分け）及び予算配分への PDCA サイクルの導入を目的として、関係部署に対して学内予算による事業等の実施状況及び成果に係る役員会ヒアリングを実施し、各センター、図書館、附属学校園を対象に、役員が行った点検・評価を基に学内の配分予算を減額補正（714 万円）し、学長裁量経費に充当している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- (①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学院説明会について、内容や広報の方法に工夫しながら全国で年間 15 回実施しているほか、学長等が都道府県や政令指定都市の教育長を訪問し、現職教員の大学院派遣を依頼するなど、様々な取組を行った結果、平成 25 年度の大学院説明会は、これまでで最も多い参加人数（639 名）となっており、平成 26 年度入学の現職教員派遣者数についても、平成 25 年度入学者より 4 名増加（計 87 名）している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 主に大学院（夜間クラス）で利用していた「神戸サテライト」の機能強化を図るため、施設・設備を拡充し「神戸ハーバーランドキャンパス」として開設するとともに、兵教ホール・会議室の新設等の修学環境を大幅に充実させることにより、「教育研究」拠点、「連携・協働」拠点、「情報発信」拠点として活用している。
- 近畿地区の 13 国立大学法人で災害時等に相互が連携・協力することにより、被災大学に対する迅速かつ的確な緊急支援及び復旧支援を推進し、被災大学の業務継続の確保と早期復旧を図ることを目的とした「大規模災害等発生時における近畿地区国立大学法人間の連携・協力に関する協定」を締結し、大規模災害等発生時には、被災大学からの要請に基づき、「食糧、飲料水、防災用具その他生活必需品物資の提供」等の相互の連携・協力を行うほか、平常時には災害対策等の情報共有を図っていくこととしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 各課程のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて、「ミッションの再定義」や各課程の設置目的等を踏まえて統一的に見直しを図っており、特に学士課程については、養成すべき人材像を具体的に 50 項目で示した「教員養成スタンダード」に基づき、5つの観点ごとに明文化を行っている。
- 教育行政職幹部職員の能力育成モデルカリキュラムの開発に取り組んでおり、平成

25年度は、これまでに実施したインタビューやアンケート調査の結果を分析・検証し、カリキュラムの開発を行うとともに、教育行政において重要な役割を担う市区町村教育長に求められる能力を支援すること等を目的とした全国市区町村教育長セミナーにおいて、開発したカリキュラムを活用している。

- 学士課程と大学院修士課程のFD活動を活発化するため、FD専門の学長特別補佐を配置するとともに、新たに「兵庫教育大学におけるFDの定義」を策定し、先進的な取組を行っている教員や学外の専門家を招き、授業改善の啓発を促進するため、アクティブ・ラーニング研修会を開催している。
- 新たに開設した国際交流センターの下で、組織的に国際交流関連事業を開始しているほか、ベトナムのバリアブンタウ教育省主催で開催された日越外交関係40周年記念教育ワーキングに副学長を含む3名の理数系教員が招待され、現地の高校教員数百名を対象に、先進的な日本の中学校・高等学校における理数教育の講演を行っている。
- 学生の海外留学を促進し、国際的視野を持ち、広い見識を身につけた教員の養成を図るため、海外留学支援特別奨学金制度を創設し、留学予定者に渡航費等の援助として奨学金を学長裁量経費により措置しているほか、海外留学授業料免除制度を創設し、授業料相互不徴収の協定を交わしていない米国の協定大学に留学する学業成績優秀者の授業料を免除することとしている。

(教員就職状況)

- 平成25年3月卒業者（教員養成課程）の教員就職状況は卒業者172名に対し、正規採用が87名、臨時的任用が56名で、平成25年教員就職率は83.1%、進学者等を除くと91.1%となっている。